御殿屋敷跡も石垣の欠損や変状進む

農地や線路による遺構の消失と分断あり

▲大手桝形虎口の石垣　▲南石塁・堀（2012年発掘調査）。▲南石塁（西から東を望む）

御殿屋敷地区の保存の現状

①竹ノ久保と宮谷付近では、大雨などによる土砂流出が見られる
②農地や果樹園として利用されていて、作業小屋や納屋などの工作物が設置されている
③鉄道や農地による消失や分断部分がある
④石垣と農道が接する部分があり、石垣崩落の際には利用者に危険が及ぶ懸念がある
⑤北石塁は比較的良好に石垣が残る
⑥「大字平福管理委員会」と「平福地域づくり協議会」、行政による史跡周辺の除草が行われている

◆御殿屋敷は南北370m規模

御殿屋敷は利神城の山麓居館で、南北370m、東西110mの規模です。南北を石塁で仕切り、南側は前面に堀を持ちます。西側は佐用川・庵川を堀として護岸に石垣を築いて曲輪内を囲んで防御したと考えられます。中央に大きな桝形虎口があり、その東北に現在では土地の区画のみ残る城主の屋敷跡が存在します。

◆城主屋敷と周辺に家臣団居住区

２０１２年の発掘調査で、屋敷関連の建物・溝・土杭や排水用の石組溝が検出、城主屋敷周辺に家臣団居住区が広がっていたことがわかりました。周囲より一段高い城主屋敷は南北に細長く約９，０００㎡あります。

◆北石塁は良好に石垣が残る

御殿屋敷の石垣は、城主屋敷跡を中心にその南北を囲む石垣と、大手桝形虎口石垣やその付近の石垣が残っています。しかし、智頭急行鉄道によって分断されている箇所や、農道整備など後世の改変で失われている箇所があり、山城地区同様に、欠損や変状が見られ、山側では土砂流出による崩壊箇所があります。北石塁は比較的良好に石垣が残ります。

整備基本計画策定にあたって ちょっとひとこと ②

●計画づくりは人づくり

『史跡の整備計画』を策定するということは、担当部署と国・県、専門家の先生がたとの協議のみでつくるのではなく、いかにたくさんの人に、要するに、「プロデューサー」として、たくさんの「知恵袋」を庁内にもつくる、地域にもいろいろな「人脈」をつくる、そういった意味で、『計画』というのは、もちろん人数が多くなればなるほど調整が大変ですが、やはりかかわる人が多くなってくると、協力者が増え、その後の調整がそれだけうまくいきます。「まちづくりは人づくり」と同様に「計画づくりは人づくり」そのものではないでしょうか。

NO 5
2023
令和５年８月

国史跡
利神城かわら版

編集・発行
佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790- 82- 2424

第４号では山城地区に広がる石垣の現状を報告しました。本号では、「史跡利神城跡保存活用計画」をもとに、山麓の御殿屋敷跡の現況をお知らせします。御殿屋敷地区は、近世居館跡一帯で、南北に設けられた石塁の間に城主常屋敷跡をはじめ、山城への登城路へ続く大手桝形の石垣等が残っています。地内に「平福駅」が立地し、山側では線路による遺構分断があります。